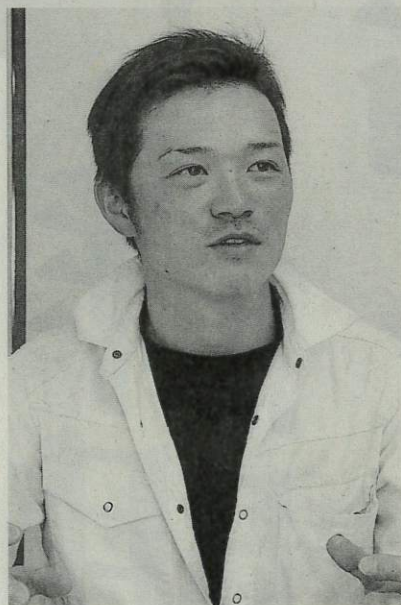


「建設分野の魅力」第30回

技術と経験積み重ね

株式会社筒井組 (姫路市)

筒井 大樹さん



3年ほど前から、現場で10人前後の職人をまとめる職長を務めている。「最も気を配るのは現場のモチベーションづくり。安全と仕事の進捗を両立させるためには欠かせない」と話す。屋外仕事のため風雨や寒暖に影響を受ける上、慣れから緊張感も失われがちだ。安全帯を着けて定期的に休憩を取っていても、事

業者の父の三男として生まれ、学生の頃は仕事を手伝っていた筒井さんにとって、とび職に就くのは自然な成り行きだったという。18歳で入社後、見習いを経て、1級とび技能士を取得。「体が小柄で高所が得意だから、地上40mでも平気。でもとび職は力仕事も必要で、現場を覆うメッシュシートの貼り方など丁寧さを求められる部分もある。得意不得意をカバーできるのがこの仕事のよさ」と話す。

作業員の足掛かりのために仮設する足場のほか、工事現場にそびえ立つタワークレーンの組み立て・解体などを担う技能者。形に残ることはないが、建築現場には欠かせない縁の下の力持ちのような存在だ。

とび職

高所で安全にカッコよく



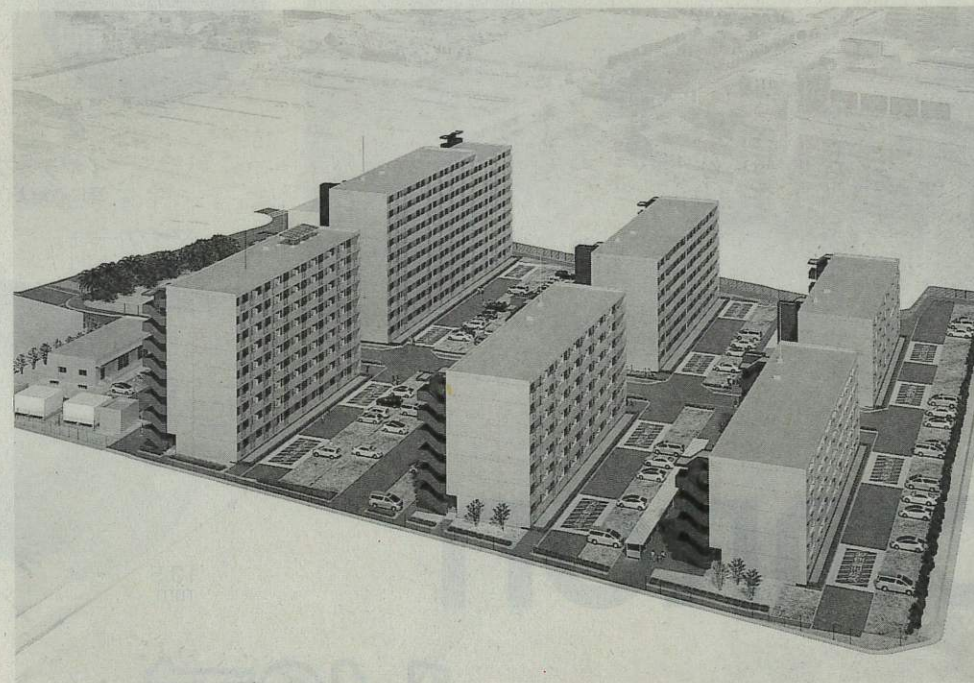
移動手段として多くの職人が利用するため、安全で使いやすい足場を設置する筒井大樹さん

故につながる恐れはある。「『あそこまで進んだら温かいコーヒー飲もう』『これを終えたら早めに帰ろう』と言う方が、『急いで』と言うより効果的」。年上の職人を動かすことも多く、声かけの仕方やタイミングを大事にしている。

子どもの頃、高所を機敏に動き回る父や先輩兄にあこがれた。今は道行く人が立ち止まって自分たちの働く姿を見上げてくれる。「カッコいいって仕事をやる上で大きなモチベーション。だから若い人にもっと仲間に加わってほしい」

住宅や学校、病院、商業施設など社会の基盤をつくり上げる建設業。さまざまな職種が一つのチームになり、快適で機能的な空間やそれぞれにふさわしい外観をつくり上げていく。人手不足は深刻だが、多くの職人が「人々の役に立つやりがい」「形に残るものを作る達成感」を口にする。明石市内にある県営住宅の工事現場で活躍する7人に、業務内容や選んだ理由、仕事の醍醐味などを聞いた。

(取材協力=兵庫県建設業育成魅力アップ協議会)



2021年11月に完成予定の「県営明石大久保南住宅」の完成イメージ図。第1期工事では鉄筋コンクリート造り2棟(7~9階建て)112戸と集会所を整備する

県営明石大久保南住宅の工事現場を訪問

県営明石大久保南住宅建築工事 老朽化が著しく耐震性にも課題がある「明石大久保南住宅(1978年建設)」の建て替え工事。耐震化やバリアフリー化のほか、太陽光発電設備やガラスパーキング設置など、安全・安心で環境にも優しい団地に生まれ変わる。2019年に着工し、6棟を順次建築。現在施工中の第1期工事では鉄筋コンクリート造り2棟(7~9階建て)112戸と集会所を整備、21年11月に完成予定。

